

# 三重県／公共事業のIT戦略

## CATV網を活かした情報基盤 GISとCALS/ECの融合を目指す

建設IT最新線

# 進む電子納品

地方自治体の取り組みを聞く

大阪と名古屋といった大都市圏に隣接する三重県伊勢神宮の街道として発展した。街道沿いに南北に中小都市が連なり、ネットワークを形成している。県下99.8%をカバーする情報基盤のCATV網を活用しながら県民、民間企業、NPO、県の連携を図り、様々な地域づくりや行政サービスに取り組んでいる。公共事業のIT化について、地域振興部企画情報室の鳥井隆男氏、県土整備部公共事業情報化プロジェクトグループ長の伊藤好幸氏、同室長の山口成大氏に、お話を聞いた。

## ITで県民しあわせプランを具体化



地域振興部企画情報室 室長 鳥井 隆男氏

本紙 三重県は「高品質CATV網を整備し、情報インフラを活用して、様々なIT施策に取り組んでいく。県の情報化についてお聞きください。」

鳥井 今年9月に「三重県におけるIT活用に関する有識者懇話会」からIT活用に関する提言をいただき、それを踏まえて「ITとあわせ」を推進する総合計画の「県民しあわせプラン」を具体化するための手だてとして、県民生活に寄与する手段として取り組んでいます。

三重県は名古屋・大阪といった大都市圏に隣接し、都市圏は伊勢神宮の街道として発展したこともあり、南北に細長い中小都市が連なり、ネットワークを形成している。CATVの整備が始まりました。それが競争しながらCATVを普及させた結果、今年3月末まで普及率は99.8%、世帯加入率は66.7%に達しました。

そして、これらのCATV事業者間をつないで全県のネットワークを構築しています。このネットワークを基盤として、行政WAN、学校のくもネットが構築され、「三重MIX」としてネットワークは、企業向けに無料で開放されています。

## 全庁的なITの利活用目指す

方々、情報化という切り口で考えていくことが重要だと考えています。県民にとって各種申請・申し込みを役所へ足を運んで済ませるのではなく、インターネットを通じて電子申請が普及すれば、県民にとって行政サービスは、段々向上するはずです。

これからは地域の中で県民、民間企業、NPO、行政を含め、多様な主体が連携しながら地域社会をつくり、「新しい時代の公」のあり方を探ります。

## 地域社会をつくる新しい時代の公を

市町村らと共有で地図データづくり

本紙 三重県はGISの利用を進めるという思いがあります。鳥井 地図情報システムである三重県GISの構築を進めています。それは県庁WANで利用可能なインターネットGIS、インターネットで情報提供するGIS、パソコン単体で利用できるGISの3つで構成されています。

そのCATVの普及には、国の緊急経済対策で増額された地域地域ケーブルテレビ施設整備事業補助金を獲得できたことも、事業者がインセンティブになりました。ハードの情報基盤ができて、ソフト的なコンテンツを乗せるか。三重県の施策を有効に展開するツールとして、IT有識者懇話会の提言を受けたことなので、今後はソフト的なコンテンツの活用を目指していきます。

県庁のパソコンは約6000台あり



県土整備部公共事業情報化プロジェクトチーム 主査 山口 成大氏



県土整備部公共事業情報化プロジェクトチーム 主幹 伊藤 好幸氏

## 使い勝手良くしながらITを推進 情報化と建設会社のBPRを期待

本紙 発注図面製作CADに福井コンピュータの「TREND」を選定した理由は、なんですか。

山口 選定にあたっては、SXD対応でOCF検定認証品を前提に、企画コンペの方式で書類審査のほか、実際に動かしてみた使用しやすさを評価基準にしました。多くの職員が利用できるように、ライセンスとアップグレードの保守が必要があり、また、CADに限りませんが、ソフトのパフォーマンスは重要で、バグもあつたりします。インスト

ルバパッチ処理が容易にできるという点も評価しました。他社の製品とは違って、総合的な観点から「TREND」に決めました。

本紙 測量から工事まで一貫してCAD化されるのは、いいでしょうか。

山口 継続事業などでは、まだまだ紙・マイラーで作成されたデータを利用する必要がありますので、測量・設計段階から、地元との合意形成、工事発注段階まで、すべて電子で行うのは数年先になると思えます。

本紙 CADを持っていない建設会社は、どうなりますか。

伊藤 発注者が電子納品をしない場合でも、発注図面をCADで製作し、電子媒体で受注者にデータを渡すか、どうなりますか。

本紙 CADを導入して職員の反応はどうですか。

伊藤 民間会社はCADを業務に生かしていますが、県の職員は今まで手書きに慣れているので、CADの導入は賛否両論です。一挙に3000人、5000人のスキルを上げるのは、たいへんなので職員研修を進めていくつもりです。一から図面を書ける作業が主ですが、それでも使いこなすのは難しいという職員の反応です。

本紙 県下の企業への普及について、どのような取り組みをしていますか。

伊藤 普及啓発に向けて年間2回11会場を回って電子入札、電子納品のお話をさせていただいています。職員を含め8月の講習会には職員を含め、600人近い参加がありました。山口 また、平成14年8月に三重県建設技術センターと協働でCALS/EC研修センターを設け、電子入札や、CADの操作を体験してもらう講習・研修を行っています。

本紙 こちらの受講者事前アンケートを読むと、「インターネットに接続されたパソコンがない」という設問があります。

伊藤 そういった人も実際にいます。公共事業の現場は、インターネットに接続されたパソコンがあると非常に便利ですが、これまで本場の必要性に迫られていなかったので、CALS/ECのメリットが上げられるのは、透明性の拡大、コスト削減、省資源とか、発注側の論理です。しかし、建設業で利益を上げるのは現場です。まず現場が時代に合せて改革しないと、利益につながりません。

公共事業も減る中で、行政に指名されては企業は生き残りません。建設ITの中でCALS/ECは一部です。その中の一部が電子入札、電子納品です。しかし、電子入札と電子納品が建設会社のBPR（ビジネス・プロセス・リエンジニアリング）のきっかけになってほしいと思っています。そういう話を業界の方々に展開しています。

本紙 これからは待っていても公共事業の受注機会はない。自ら情報にアクセスし、ビジネスチャンスをつくり出すという意識ですね。

## まずは、正しい土木専用CADを選ぶことから。

EX-TREND "MUSASHI" TREND Series, developed by Fukui Computer, Inc. aim at comprehensive support for CALS/EC by providing solutions to both orderers and receivers of public works. EX-TREND "MUSASHI" is a business support system for construction industry developed with a thorough knowledge of Japan's electronic delivery system.

1Pack 5ライセンス付き!

CALS対応土木システム【エクストレンド 武蔵】

EX-TREND 武蔵

使いやすさと豊富な機能が大好評の“エクストレンド 武蔵”。日本の建設事情を知り尽くした、信頼のCALS対応土木システムです。

### 発注者も認める「EX-TREND」シリーズの信頼性。

（EX-TREND）シリーズ 導入実績<sup>(※1)</sup>

電子納品管理ソフトの導入が完了している31都府県（土木部門）のうち、14府県の導入実績を誇る「EX-TREND」シリーズ<sup>(※2)</sup>。電子納品事情を知り尽くした福井コンピュータは、発注者と受注者の双方において、スムーズなIT化移行を実現できるよう、システム＆ソリューションを提供し続けています。

（※1）各都府県土木部門における、電子納品管理ソフトの導入状況。（平成17年12月末現在）  
（※2）EX-TREND Win 官公庁専用シリーズ、（TREND）電子納品管理システム含む

●SXF対応土木CAD

●CAD製図標準アシスト

●構造物配置計算

●各種土木計算

●展開図/出来形図

●路線/縦横断

●写真管理

●出来形管理/品質管理

●電子納品

## 体験版お申し込み受付中!

福井コンピュータ公式WEBサイトよりお申し込みいただいた方に「EX-TREND 武蔵」体験版を送付いたします。

お申し込みは [www.fukuicompu.co.jp](http://www.fukuicompu.co.jp)

“建設系CAD”といえば“福井のTREND”

福井コンピュータのCAD製品「TREND」シリーズは、国土交通省、国土地理院、各市町村などの官公庁様をはじめ、全国27,000社の建築設計業者様と、16,000社の測量・建設コンサルタント様など、幅広く御愛用いただいております。

武蔵の使いやすさのためにみませんか!

武蔵 体験版あります!

土木CAD 写真管理 電子納品

※体験版は、セットアップしてから50日間ご利用いただけます。また、一部の機能については制限がありますのでご了承ください。